認　定　書

国住指第2607号
平成 19年 2月 6日

興亜不燃板工業株式会社
代表取締役　三枝　輝壹郎 様

国土交通大臣　冬柴　鐵三

下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第七号並びに同法施行令第107条第一号及び第三号(屋根：各30分間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1.認定番号

FP030RF-0175

2.認定した構造方法又は建築材料の名称

かわら・硬質木毛セメント板表張／せっこうボード裏張／軽量鉄骨下地屋根

3.認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

別 添

1.構造名：

かわら・硬質木毛セメント板表張／せっこうボード裏張／軽量鉄骨下地屋根

2.申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1　申請仕様の寸法

項　目	申　請　仕　様
支持部材間隔	2000㎜以下
たるき間隔	606㎜以下
葺材の働き幅	仕様：かわら葺き ①又は② ①粘土がわら葺き 働き幅：305㎜以下 ②プレスセメントがわら葺き 働き幅：357㎜以下

3.申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2　申請仕様の主構成材料

項　目	申　請　仕　様
たるき	材料：一般構造用軽量形鋼（JIS G 3350） 形状・寸法：C-100×50×20×2.3㎜以上
葺材	材料：かわら ①又は② ①粘土がわら（JIS A 5208）：葺き枚数40～60枚/3.3㎡ ②プレスセメントがわら（JIS A 5402） 葺材単位面積質量：45kg/㎡以下
野地板	材料：硬質木毛セメント板（JIS A 5404） 厚さ：20～50㎜ 密度：0.88～1.2g/cm^3
化粧材	材料：せっこうボード せっこうボード(JIS A 6901) 吸音用あなあきせっこうボード(JIS A 6301) 厚さ：12.5㎜以上

4.申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3　申請仕様の副構成材料

項　目	申　請　仕　様
たるき取付金具	材料：①又は② ①一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101） 等辺山形鋼　L-75×50×6㎜以上 ②一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101） 平鋼　FB-6×75×65㎜以上
たるき留付材	材料：六角ボルト(JIS B 1180) 寸法：M12×25㎜以上 ナット(JIS B 1181) 寸法：M12以上
補助たるき	仕様：オープンスペーサー 材料：鋼板 ①～⑯の一 ①塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)：厚さ0.35～0.8㎜ ②溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)：厚さ0.35～0.8㎜ ③塩化ビニル樹脂金属積層板(但し鋼板に限る) 国土交通大臣認定　不燃材料　NM8674～NM-8696の一：厚さ0.35～0.8㎜ ④アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板 国土交通大臣認定　不燃材料　NM-8027：厚さ0.35～0.8㎜ ⑤ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板 国土交通大臣認定　不燃材料　NM-8028：厚さ0.35～0.8㎜ ⑥ステンレス鋼板(JIS G 4304又はJIS G 4305)：厚さ0.25～0.8㎜ ⑦塗装ステンレス鋼板 国土交通大臣認定　不燃材料　NM-8316～NM-8326の一：厚さ0.27～0.8㎜ ⑧樹脂充てん/両面塗装ステンレス鋼板 国土交通大臣認定　不燃材料　NM-8327～NM-8332の一：厚さ0.52㎜ ⑨樹脂充てん/両面鋼板 国土交通大臣認定　不燃材料　NM-8698：厚さ0.56㎜ ⑩無機質断熱材裏張/金属板 国土交通大臣認定　不燃材料　NM-8673：厚さ2～4㎜ ⑪ポリオレフィンラミネート鋼板 国土交通大臣認定　不燃材料　NM-0022：厚さ0.35～0.8㎜ ⑫塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)：厚さ0.35～0.8㎜ ⑬塗装溶融亜鉛-5%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき鋼板(JIS G 3318)：厚さ0.35～0.8㎜ ⑭溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)：厚さ0.35～0.8㎜ ⑮溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)：厚さ0.35～0.8㎜ ⑯電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313)：厚さ0.35～0.8㎜
受材	材料：一般構造用軽量形鋼（JIS G 3350） 形状・寸法：FB-100×1.6㎜以上
防水材	材料：①～④の一 ①アスファルトルーフィングフェルト(JIS A 6005) 単位面積質量 1500g/㎡以下 ②合成高分子系ルーフィングシート(JIS A 6008) 厚さ 1.5㎜以下 ③改質アスファルトルーフィングシート(JIS A 6013) 厚さ 2.5㎜以下 ④透湿防湿シート(JIS A 6111) 厚さ 0.45㎜以下

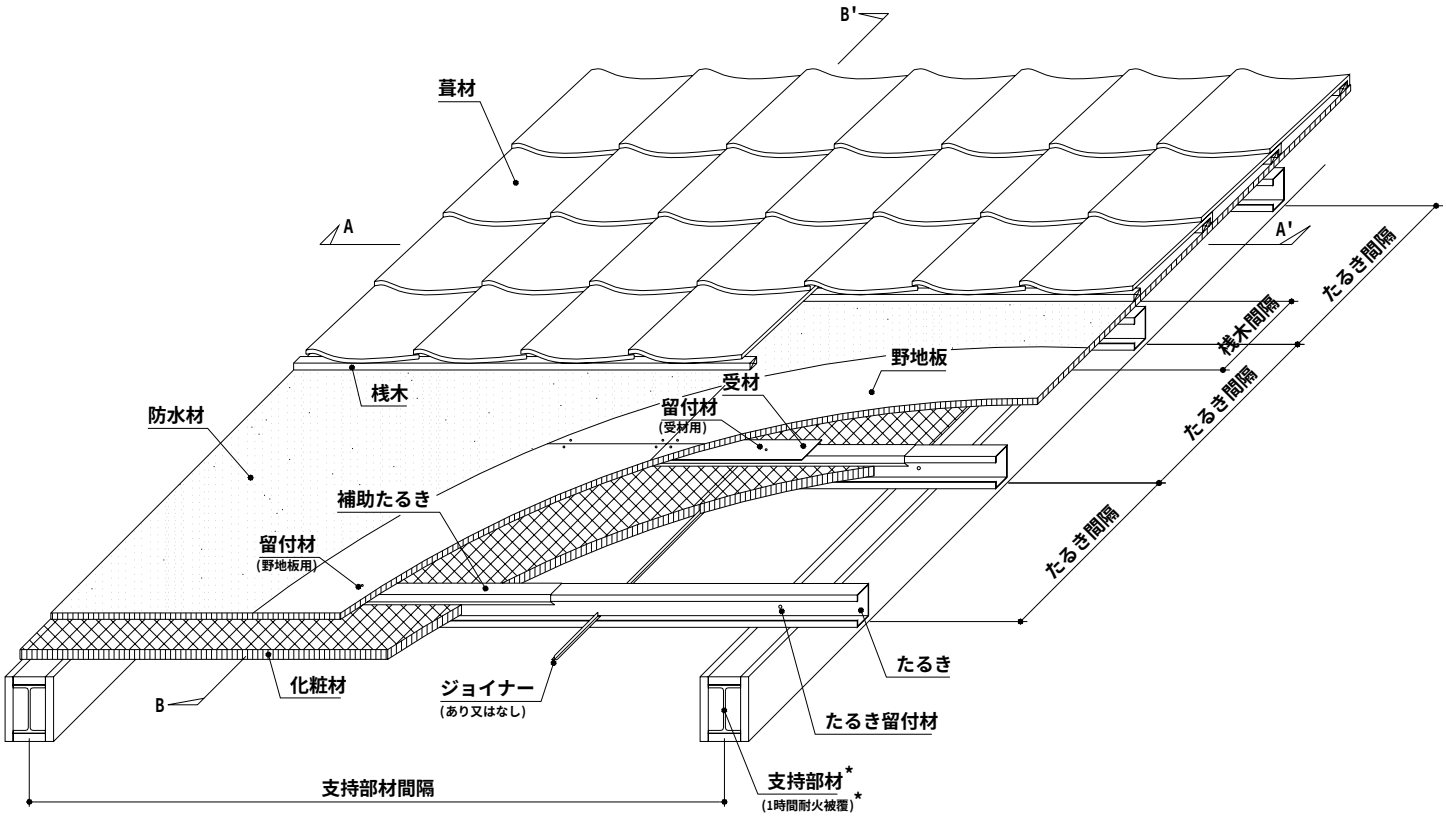
つづく

つづき

桟木	材料：製材 (日本農林規格に適合する製材) 寸法：18×25㎜以上(±2㎜) 間隔：232㎜以下
留付材	野地板用： 材料：ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125) 寸法：呼び径φ4×35㎜以上 留付間隔：270㎜以下
	桟木用： 材料：ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125) 寸法：呼び径φ3.5×35㎜以上 留付間隔：303㎜以下
	受材用： 材料：ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125) 寸法：呼び径φ4×35㎜以上 留付間隔：450㎜以下
ジョイナー	仕様：あり又はなし 形状：(1)、(2)又は(3) (1)Ｔ形　(2)Ｈ形　(3)ハット形 材料：1)～4)の一 1)溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) 厚さ 0.27～0.35㎜ 2)塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) 厚さ 0.27～0.35㎜ 3)冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) 厚さ 0.25～0.35㎜ 4)塗装ステンレス鋼板 厚さ 0.25～0.35㎜

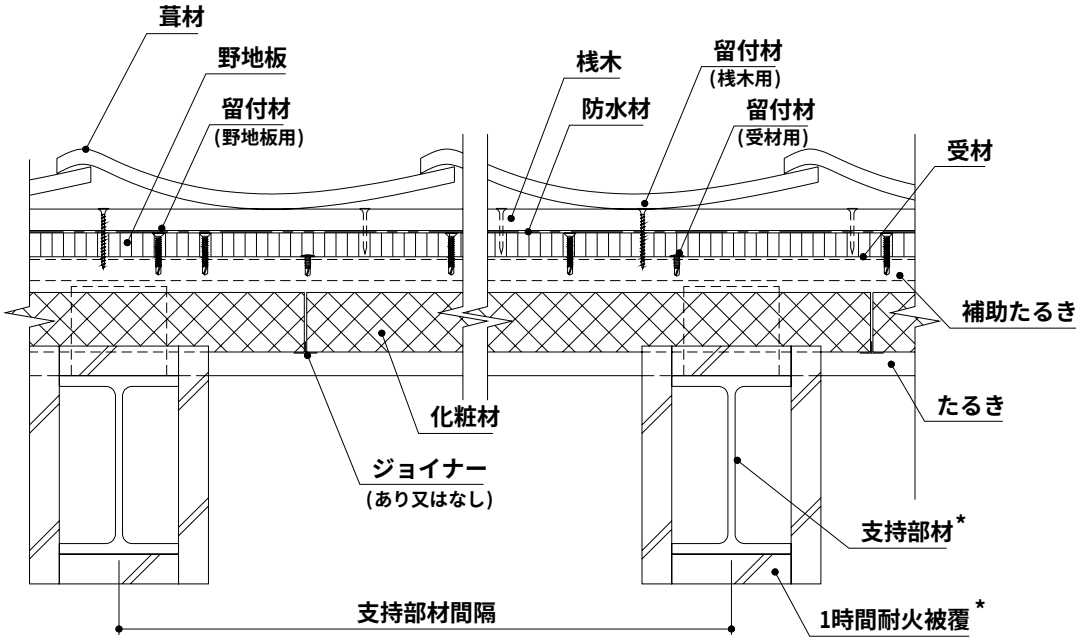
5.申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図5に示す。

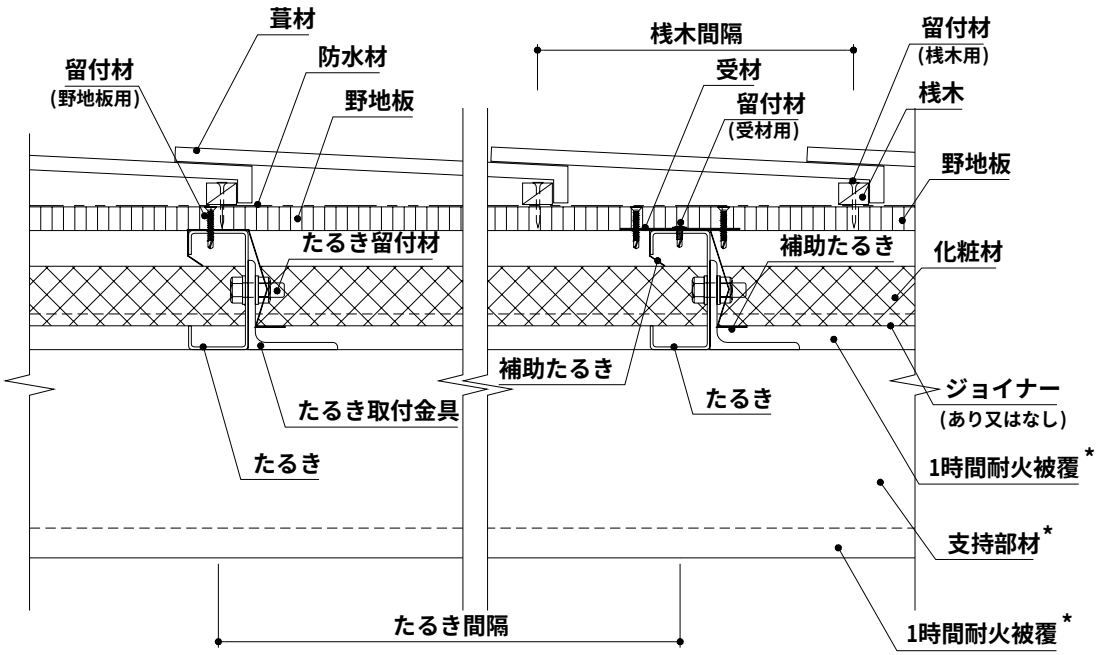


*：評価対象外

図1　構造説明図（①粘土がわら葺き仕様）



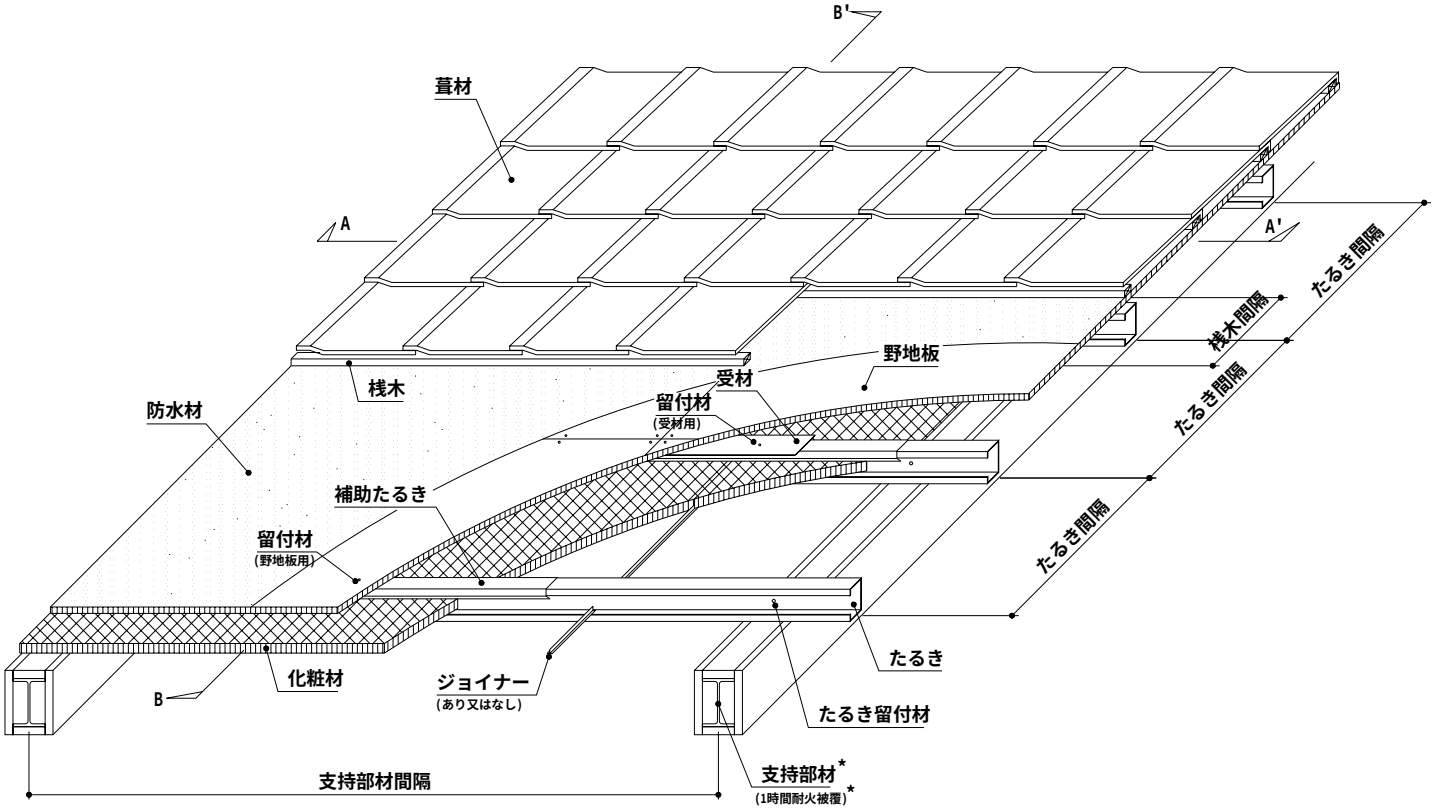
A-A'　断面詳細図



*：評価対象外

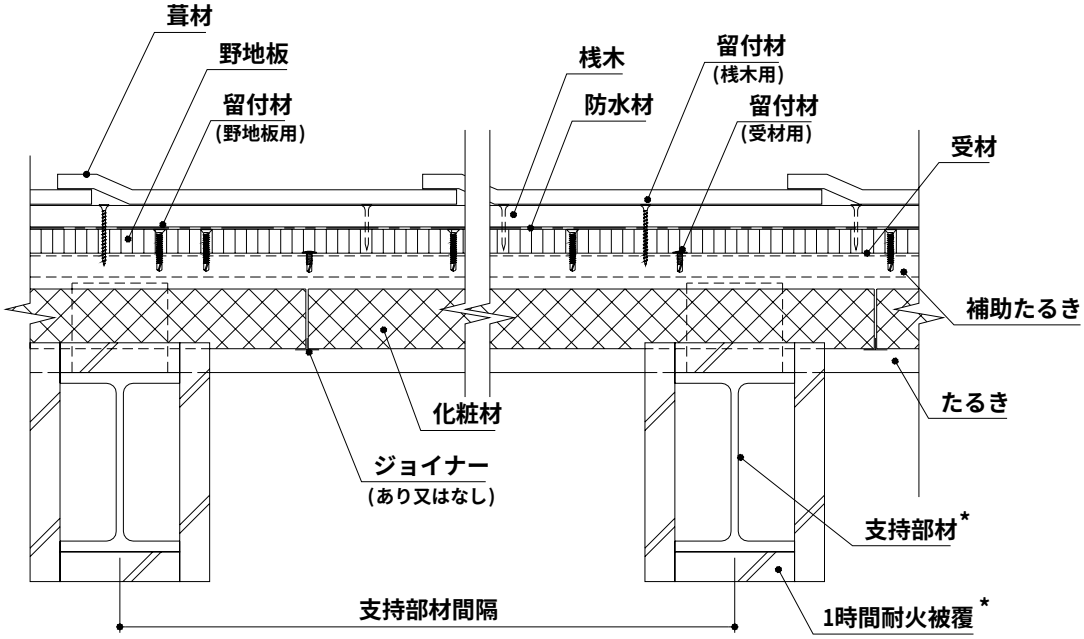
B-B'　断面詳細図

図2　構造説明図（①粘土がわら葺き仕様）

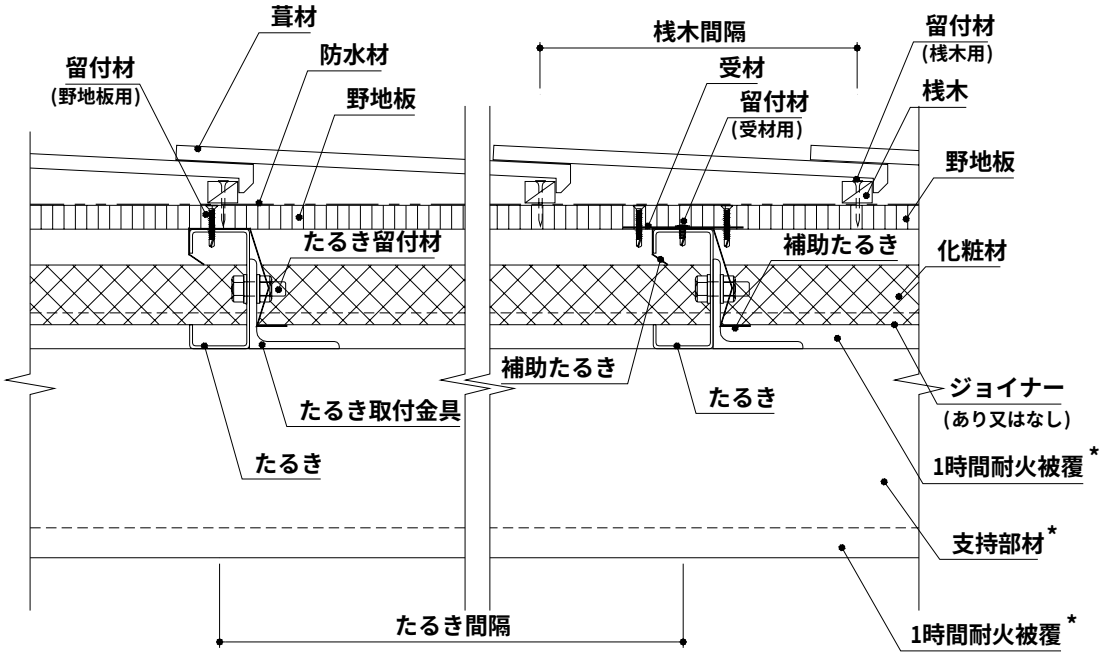


*：評価対象外

図3　構造説明図（②プレスセメントがわら葺き仕様）



A-A'　断面詳細図

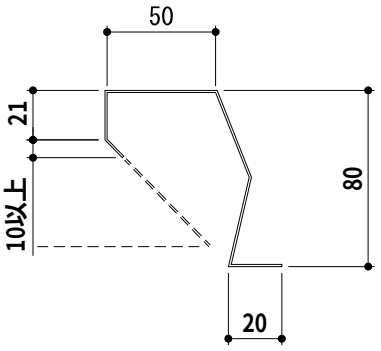


*：評価対象外

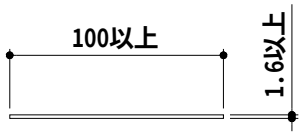
B-B'　断面詳細図

図4　構造説明図（②プレスセメントがわら葺き仕様）

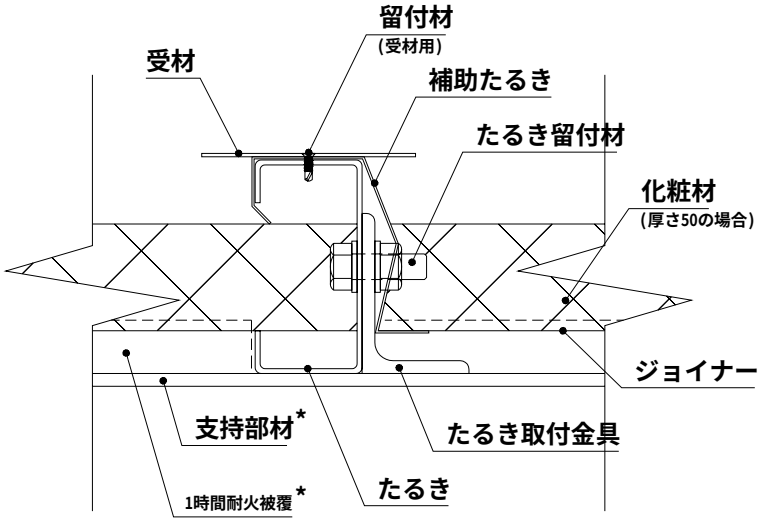
単位 mm

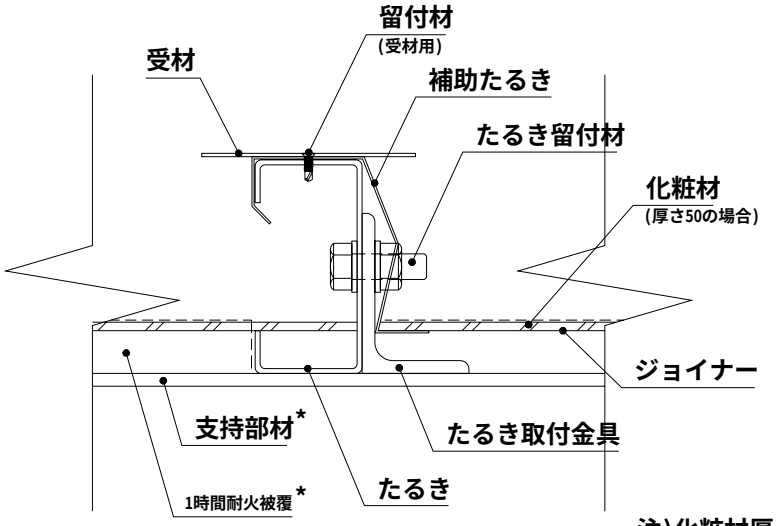


補助たるきの形状・寸法



受材の形状・寸法





注)化粧材厚さ4～50
*：評価対象外

受材・補助たるき・化粧材・たるき取付金具取付詳細図

図5　構造説明図

6.施工方法：

施工図を図6及び図7に示す。

施工は以下の手順で行う。

(1)下地

1)たるき取付金具を、たるき間隔606㎜以下になるように、母屋等に電気溶接で取付ける。

2)たるき留付材を用いて、たるき取付金具に取付ける。

(2)補助たるき(オープンスペーサー)の取付け

1)たるき上に補助たるきを嵌め込む。

2)不陸が生じた場合はドリルねじ(呼び径φ4.2×16㎜以上)で仮留めしてもよい。

(3)化粧材の落し込み

1)たるきの鍔部に嵌め込み補助たるきの受け部に化粧材を落とし込む。

2)目地部には縦方向(たるきに対し直交方向)にジョイナーを挿入する。

(4)受材の取付け

野地板の短辺方向の補助たるき上に、受材用留付材を用いて補助たるき及びたるきに留付ける。

(5)野地板の取付け

1)割付図に従って野地板を配置する。

2)取付けは野地板用留付材を用いて、野地板端部から100㎜以内の位置でたるきに留付ける。
留付間隔は270㎜以下とする。

(6)防水材の張付け

防水材を、重ね代100㎜以上となるように野地板の上に敷き込む。

必要に応じてタッカー(工業用ステープル：JIS A 5556 ステンレス製内幅9.6㎜-足長10㎜以上)で仮留めとし、桟木などで取付ける。

(7)屋根葺き(かわら葺き)

①粘土がわら葺き仕様

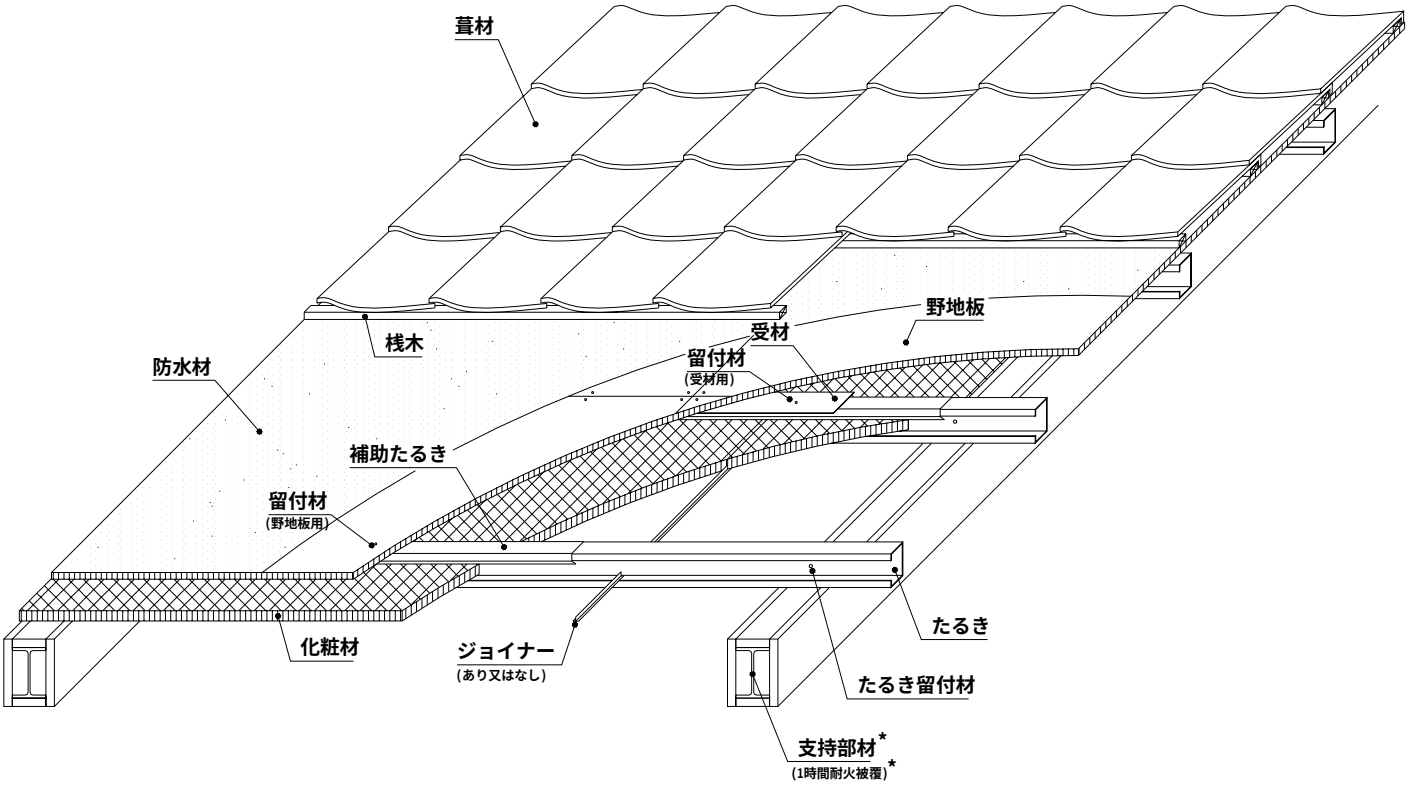
・葺材のサイズに合わせて桟木を留付材(桟木用)で固定する。

・割付図に従って桟木に引っ掛けるように葺材を葺き上げる。

②プレスセメントがわら葺き仕様

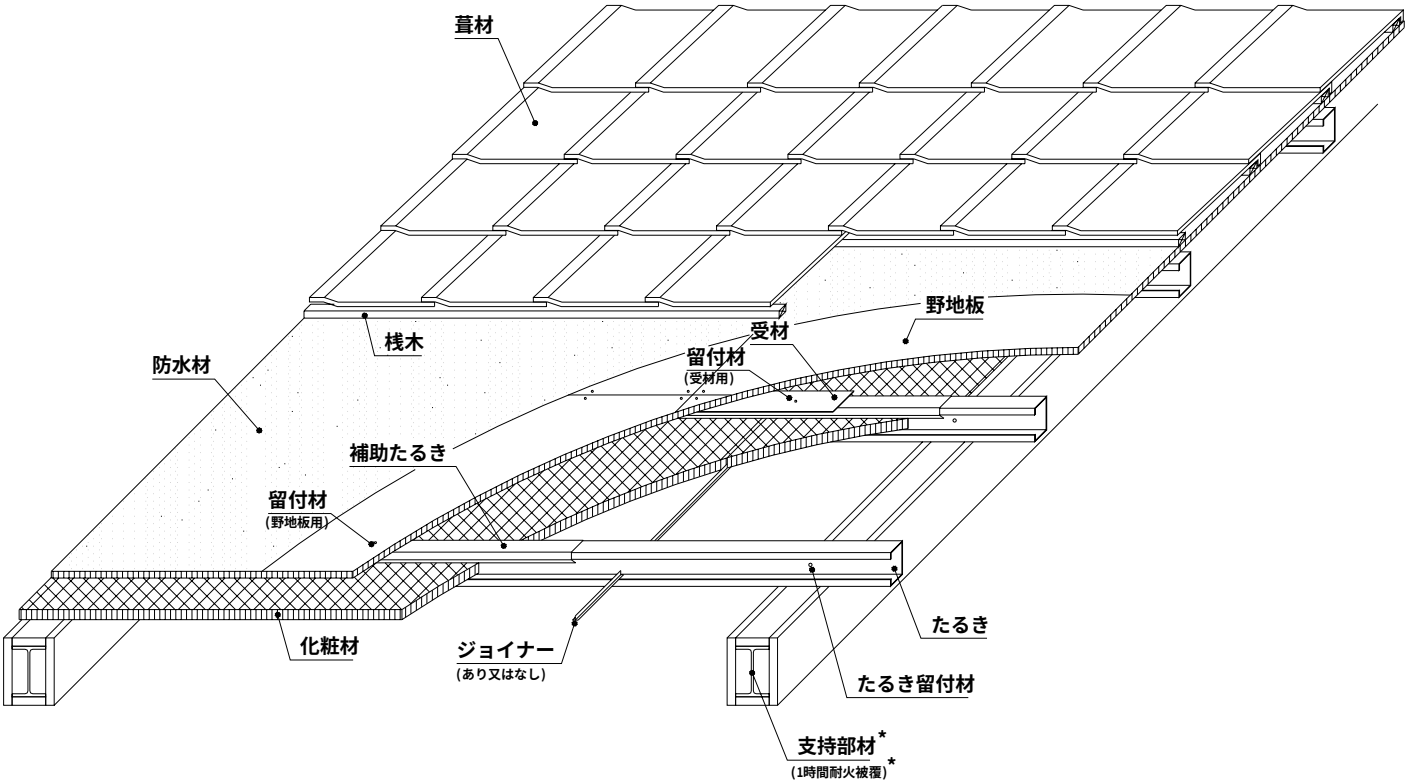
・葺材のサイズに合わせて桟木をドリリングタッピンねじで固定する。

・割付図に従って葺材を葺き上げる。



*：評価対象外

図6　施工図（①粘土がわら葺き仕様）



*：評価対象外

図7　施工図〔②プレスセメントがわら葺き仕様〕